文化部活動改革（部活動の地域移行に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

令和7年度 **成果報告書** 概要

栃木県

自治体の課題、現状

【現状】

令和５年３月に「とちぎ部活動移行プラン」を策定し、令和７年度までに、全ての公立中学校の休日の部活動を１つ以上、地域クラブ活動にすることを目指して取組を進めた。文化部活動については、休日に地域クラブ活動を実施した学校数は17校となり、県内公立中学校全体の約11.3%であった。

【課題】

地域の実情に応じた運営体制の構築や運営団体の確保、指導者の質の保障・量の確保、活動場所の確保、費用負担の在り方、教員の兼職兼業の許可に関する整理等が挙げられる。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	152 校	全生徒数	46,254 人
域内の部活動数	356 部	実施した地域クラブ数	18 クラブ
全体の指導者数	19 人	全体の運営スタッフ数	35 人程度
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ、保護者会、地域学校協働本部、行政直営		
主な種目	吹奏楽、合唱、美術、ディベート		
平均的な活動回数	2 回/月	年間平均参加生徒実数	３年：10 人/クラブ ２年：10 人/クラブ １年：10 人/クラブ
参加会費	0 円/月	主な活動場所	各中学校

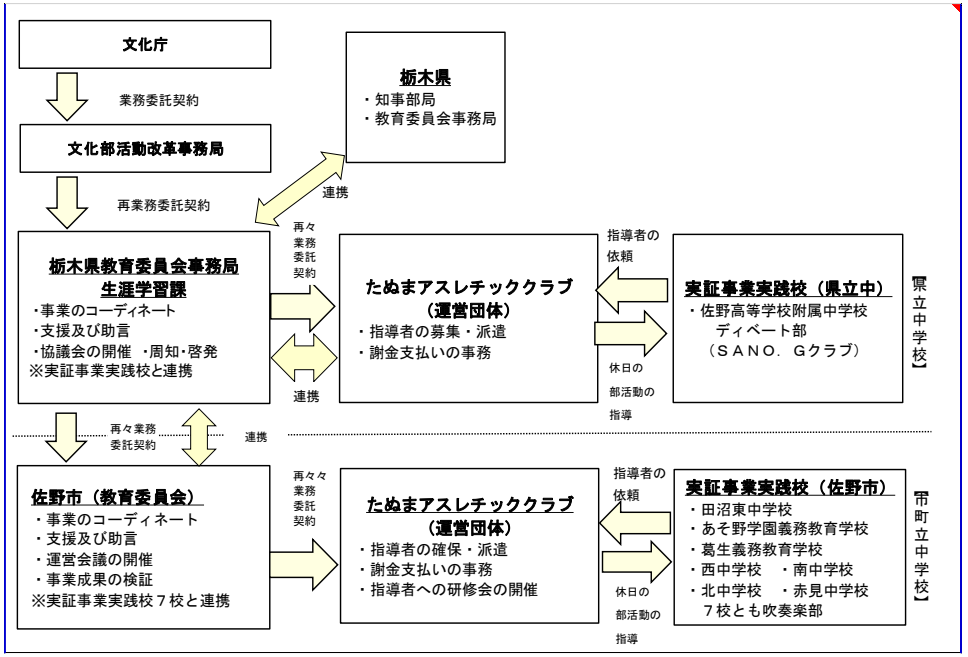
取組の概要や成果

○市町担当者会議を開催し、実証事業の成果や課題を共有するとともに、教育事務所や市町の担当者と各地域の現状について情報共有を進め、担当者間で連携体制の構築を図った。

○個別相談会では、各市町の実情に応じた課題について、具体的な助言や情報提供を行うことで、地域の状況に即した支援を行った。

○「栃木県部活動指導員・地域クラブ活動指導者バンク」を運用し、関係者へ募集チラシを配布することなどの取組を行ったことで、地域クラブ指導者の確保につながった。

運営体制図



文化部活動改革（部活動の地域移行に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

令和7年度 **成果報告書** 概要

栃木県佐野市

自治体の課題、現状

本市には令和7年度現在、市立学校が24校（小学校16校、中学校6校、義務教育学校2校）ある。今後も、児童生徒数は減少していく見込みとなっている。

本市では、令和３・４年度のスポーツ庁「地域運動部活動推進事業」に指定され、モデル校を1校指定し、部活動の地域移行に取り組んできた。令和5年度には部活動地域移行推進計画《佐野モデル》を策定し、令和7年度は、計画どおり市内７校の吹奏楽部の部活動地域移行（月の休日の半分程度）を進めている。

取組の概要や成果

地域クラブ活動に参加している生徒は、地域クラブ活動において、「体力・技術が向上している」、「指導が分かりやすい」の他、「他校の生徒と交流ができるので楽しい」など、地域クラブ活動ならではの意見もあった。また、アンケートにおいて、「次年度も地域クラブ活動に参加したい」と回答した生徒は79.4%であった。教職員においては、71.2%の教職員が、自身の負担軽減につながったと感じている。

現在は月の休日の半分程度の地域クラブ活動の実施であることから、すべての休日に地域クラブ活動を行えるよう取組を推進していきたい。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	8 校	全生徒数	2,571 人
域内の部活動数	16 部	実施した地域クラブ数	7 クラブ
全体の指導者数	8 人	全体の運営スタッフ数	2 人
主な運営団体	特定非営利活動法人　たぬまアスレチッククラブ		
主な種目	吹奏楽		
平均的な活動回数	2 回/月	年間平均参加生徒実数	3年： 7 人/クラブ 2年：10 人/クラブ 1年：10 人/クラブ
参加会費	0 円/月	主な活動場所	各学校の音楽室

運営体制図

